



福井市議会議員

ごとう 勇一



4年間の活動のまとめ

&

次の4年間の約束（マニフェスト）

あいさつ

皆様におかれましては、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

いよいよ統一地方選挙が近づいてきました。(4月15日告示・4月22日投票)私の4年間の議会活動が問われることとなります。

この4年を振り返ってみますと、合併による新福井市誕生、福井豪雨被災とそれによる下水対策や河川改修、介護保険法の改正や障害者自立支援法などの福祉関連制度の大幅改定、えちぜん鉄道、福井駅周辺再開発などなど、その時その時で判断していかなければならない問題なのですが、そのどれもが10年後、50年後の福井市の形、福井市民の生活に影響してくることを考えると、議会の責任の重大さを改めて感じました。

新しい風を福井市政に吹かせるために、議会改革をいかにすすめていくのかが問われる4年間でした。新人議員だけの会派結成、会派としての綱領づくり、市民との対話を通して政策をつくっていく「市民公聴会」の開催など、新しい会派運営の流れをつくることができました。また、私もタクシーチケットを使用しない、費用弁償(議会当日の日当・交通費)を受取らないといった個人でできる改革を実行しました。

議員本来の仕事として、チェック活動、調査活動、政策提言も毎回の定例議会で行いました。その内容も、市民自治、市民協働、NPO、公民館、児童館、学校給食、障害者福祉・雇用、高齢者福祉、農業、米・米粉、交通体系、行政改革、入札問題、業務委託などと多岐にわたり行い、各分野で一定の成果があったと考えています。

議会の役割は大きいものがあります。自分たちの決定や行動に説明責任を果たし、政策集団としての議会をつくっていく必要があります。また、市民協働の時代、議会に市民の声を取り入れていくための仕組み作りが求められています。今後も、市民一人一人が輝く福井市にするために全力を挙げて頑張っていきます。

活動のまとめと次の約束について

今までの選挙公約は有権者に向けての口約束であり、あれもこれもといった内容、破ってもかまわないといったその時だけのものでした。公約は有権者との約束であり、事後評価されなければならないと、私は考えています。選挙は有権者との約束がどの様に実行されたのかが評価される場です。そのためにも、福井市議会議員「ごとう勇一」の活動に対して評価するだけの材料が提供されなければなりません。とりあえずは自己評価にしかすぎませんが、材料として4年間の活動のまとめを作成しました。

また、議員は36分の1の存在であり、有権者との約束としてのマニフェストは作れないのではないか、ということがいわれます。しかし、議員としてどのような行動をとったのかが後で検証されることは必要であり、それがマニフェストであると考えています。具体的に何かをしますといった約束はできませんが4年間の市会議員としての行動をしめすためのマニフェストを作成しました。

平成15年度・平成16年度の活動のまとめと自己評価

選挙公約	調査活動	議会での施策提言・要望等	評価
<p>高齢者・障害者・子どもなど、誰でもがイキイキと暮らせる社会づくり</p>	<p>障害者当事者団体との定期的な意見交換を行いました。 越乃国広域事務組合へ支援費制度の調査を行いました。 東京都杉並区の児童館の障害児受け入れについて調査しました。 福井市内企業の障害者雇用状況を調査しました。 福井豪雨被災者（障害者、難病患者）の聞き取り調査を行いました。 シックスクール（学校内の建材・内装材で使用されている化学物質による健康被害）の実態調査をしました。</p>	<p>支援費制度での充実をめざして議会で提案しました。特に在宅生活に欠かせないホームヘルプの移動ヘルプの拡充を訴えました。 福祉サービスが遅れている精神障害者に対する制度充実を要望しました。 地域の中で障害児が生活できるように、特殊学級での越境通学の問題、放課後児童会での障害児受け入れを要望しました。 多様な障害児に対応するためには学校教職員の障害児理解が必要です。教職員に対する教育・研修体制充実を要望しました。 高齢者、在日外国人、障害者に対する住宅保証の視点から公的保証人制度を提案しました。 大阪市等で実施され、障害者雇用社会貢献を加味した入札制度を提案しました。 進まない障害者雇用に対する福井市の施策を質問しました。 放課後児童会と児童クラブの格差是正を要望しました。 学校教室内の化学物質濃度検査の継続を要望しました。</p>	<p>支援費に関しては、当事者のがんばりもあり生活支援、外出支援が大幅に拡充されました。精神障害者も、タクシーチケット助成制度の対象になりました。 障害者雇用が0であった福井市福祉公社が障害者雇用を約束し、雇用宇に結びつきました。</p>
<p>NPOやボランティアが活躍できる社会、そのための環境整備</p>	<p>NPOとの政策提携を行いました。 市民協働条例制定に向けてNPO団体と話し合いを行いました。 福井豪雨時には水害ボランティアセンターに常駐し、現地での状況把握に努めました。 新潟県長岡市の市民プラザを視察研修しました。 新潟中越地震ボランティア活動に参加し、ボランティアセンター運営、行政の動きなどを調査しました。</p>	<p>福井市市民協働の推進及び非営利公益市民活動の促進に関する条例制定までの策定過程の不透明さ、市民参加の委員会答申からの後退について論議しました。</p>	<p>市民協働事業が確実に動く庁内推進体制が設置されました。 平成16年度中にNPO拠点施設整備の方向性を出すことを約束しました。 福井市議会非営利公益市民活動推進議員連盟を結成し、NPOと議連の学習交流会を開催しました。 福井豪雨時にはボランティアと行政の連携役を務め、災害現場から情報発信できました。</p>
<p>学校や公民館などの施設、地域の農業や商店街などの地域資源を結びつけ、地域から教育や環境、福祉の新たな動きをつくる、そのための環境整備</p>	<p>大野市・勝山市・武生市の公民館運営について聞き取り調査しました。 新潟県長岡市へ公民館のコミュニティセンター化について調査しました。 三重県名張市の公民館の地域委託について調査しました。 日新・足羽・社南・東安居等の公民館活動の聞き取りをしました。 学校給食の福井県内産農作物の取り扱い率を調べました。 学校給食パンの残留農薬検査を実施しました。 鳥取市の米粉パンの学校給食導入について調査しました。</p>	<p>公民館の位置づけが、教育施設なのか地区活動拠点なのか性格があいまいなことに対して、館の運営見直し等を提案しました。 公民館主事の資格取得に関して要望しました。 地場農産物の普及拡大に関して、地産地消の立場から提案しました。学校給食での地元農産物の導入、米パンの取り組みを要望しました。 学校余裕教室の活用について提案しました。 新エネルギーよりも省エネルギーに重点を置いた計画作りを提言しました。</p>	<p>福井市の公民館に対する考え方は、建前が強く、実態と合わないことが多々あります。公民館のことが議会で取り上げられたことが少なく、そうした意味では様々な問題点を提起できたと考えます。 社会教育主事の資格取得を、年間1名から2名に増員になりました。</p>
<p>市民参画を重視して、市民の声が公正・公平に反映できる市政条例作りの提案その他</p>	<p>岡山県岡山市へインターネットを活用した電子町内会について調査しました。 マニフェスト学習会を実施しました。 志木市、我孫子市などの行政改革について調査しました。</p>	<p>市民自治条例の提案、持続可能な地域社会づくりに関する提案を行いました。 インターネットを活用した市民参加の仕組み作りを提案しました。 福井市ホームページ改善策を提案しました。 福井市の政策や財政を学ぶ場作りの提案をしました。 市役所1階の市民ホールの活用策を提言しました。</p>	<p>タクシーチケットを使用しませんでした。 ホームページを開設し、情報を提供、開示しました。また、メールマガジンによる情報提供も実施しました。 はがき通信による情報提供を年間6回行いました。</p>

平成17年度・平成18年度の活動のまとめと自己評価

選挙公約	調査活動	議会での施策提言・要望等	評価と課題
<p>高齢者・障害者・子どもなど、誰もがイキイキと暮らせる社会づくり</p>	<p>障害者自立支援法実施に伴い、障害者実態調査を行いました。 バス停および歩道のバリアフリー状況を調査しました。 包括支援センターの問題点の聞き取り調査をしました。 福井市内企業の障害者雇用状況を調査しました。</p>	<p>公共交通に関する福井市の考え方を質問し、交通弱者に配慮した公共交通体系を提言しました。 泉橋取り付け道路の交通状況をもとに、歩行者対策を要望しました。 在宅障害者の在宅就労支援のために、本人への情報提供、企業への情報提供を要望しました。 障害者自立支援法による影響が出ないように福井市の独自策を要望しました。</p>	<p>障害者自立支援法、介護保険法改正、障害者雇用促進法改正、発達障害児支援法、高齢者虐待防止法など様々な福祉関連法が成立、改正され、福祉の大きな転換期を迎えました。それらに対応した福井市独自策を提案していくことが必要ですが、私自身が法改正に対する理解が追いつかないのが現状です。 障害者自立支援法施行後も現状のサービス水準を維持することができました。 大きな制度改正が続き、福井市の独自策が追いつかないのが現状です。福祉に関しては市の役割と責任が問われる時代になっています。福井市の福祉政策が問われています。私の課題として取り組みたいです。</p>
<p>NPOやボランティアが活躍できる社会、そのための環境整備</p>	<p>千葉県市川市の市民活動1%条例を調査しました。</p>	<p>寄付制度のあり方について提言しました。 新中央公民館設置に伴い、NPO、市が予定しているNPO拠点施設との連携について提言、要望しました。 福井市の行政改革と行政評価システムの連携を要望、また市民協働による事業見直しを提言しました。</p>	<p>行政評価と市民協働が結びつくまでにはなっていません。また、公民館とNPOとの連携も具体的な提案ができませんでした。</p>
<p>学校や公民館などの施設、地域の農業や商店街などの地域資源を結びつけ、地域から教育や環境、福祉の新たな動きをつくる、そのための環境整備</p>	<p>市町村合併に伴い、清水、美山、越廼の公共施設を訪問し実態把握をしました。 西墓地陥没後、しゃく谷石採掘跡坑道の調査をしました。 大谷石採掘跡落盤事故を調査しました。</p>	<p>足羽山の環境整備に関して、災害後の復旧、山全体の老朽化を指摘し、管理のあり方について提言、要望しました。 公民館主事の勤務実態について指摘し、根本的な改善を要望しました。 合併後の公共施設を各課バラバラに管理するのではなく、一元的に管理し整理するべきと提言しました。 米粉の福井ブランド化による米消費拡大を提案しました。</p>	<p>福井市財政硬直化の大きな原因が、合併に伴い公共施設が増え、維持管理費が増加したことにあります。法律の縦割りの中で、古い施設の有効活用も進んでいません。民間委託、指定管理、廃止、統廃合、売却も含めた公共施設の方針が課題です。 学校給食の地産地消に関しては、市役所内の縦割り構造により進まない面があります。農水部、教育委員会、市民生活部などの連携を作ることが課題です。 公民館は地区の拠点として、地域活動、社会教育を推進する施設です。しかし、公民館においてくる活動を調整する部署がなく、何でもかんでも公民館といった状況になっています。地区が良くなるためにも公民館の位置づけ等の見直しが課題になっています。</p>
<p>市民参画を重視して、市民の声が公正・公平に反映できる市政条例作りの提案 その他</p>	<p>福井市企業局の業務委託の実態調査を行いました。 福井市企業局の入札の実態調査を行いました。 福井市の業務委託、物品購入に関し、3年間の入札状況実態調査、分析しました。</p>	<p>福井市墓地公園の実態把握と維持管理について提言しました。 新行政改革指針に対して市民参加等による外部評価制度を提言しました。 各選挙立候補予定者に対するマニフェスト作成支援策を要望しました。</p>	<p>業務委託に関する調査を半年がかりで行い、福井市、企業局に対してチェックすることができました。業務委託のあり方や、入札制度に関しての改善につながりました。 会派「志成会」による市民公聴会を3回開催し、市民の声に基づく議会提案を行いました。 市役所、図書館に行政情報コーナーが設置されました。 マニフェストスクールに参加し、条例作り、活動評価等を学び、2期目に向けたマニフェストを作成しました。 ホームページにて動画を使った活動報告を開始しました。 はがき通信による情報提供を年間6回行いました。 費用弁償(日当・旅費)を受け取りませんでした。</p>

2007年福井市議会議員選挙 ごとう勇一 市民との約束（マニフェスト）

		考え方	取組み内容
変えていきます！ 福井市政！	市民とともに考え、 行動する議会へ	市長と議会という2元代表制の下、議会はチェック機関であるとともに、対案や独自政策が求められています。市民の声を聞き、政策としてまとめていくことが必要です。今までは、どちらかという、議会内でのポスト獲得のために会派運営でしたが、これからは政策重視の市民とともに進む会派へと改革していかなければなりません。 今までは、選挙に当選したならば議員にお任せといった風潮がありました。しかし、市民協働の時代、議会と市民との新しい関係を作る必要があります。	議会のマニフェスト(市民との約束)をつくります。 政策実現のための議員グループ作りをすすめます。 議会情報の積極的開示をすすめます。 市民との対話集会を定期的を開催します。 議員定員削減、議員報酬削減、費用弁償見直しをすすめます。 議論重視の議会運営を求めます。
	ムダをなくし、市民 優先の行政運営を	議会は行政チェックをする機関です。入札や業務委託、行政運営が公平公正に行われているのか常に目をひからせる必要があります。効率的な行政運営をしていくことは、単に予算を削るということではなく、市民優先の分野へ予算を重点配分していくためです。福井市は非常に硬直化した財政構造になっています。質を高めたサービスを行うためにはとにかく現在の事業見直しが必要です。	行政チェック・監視機能を高めていきます。 入札制度の公平、公正、透明性を高めていくための仕組み作りを求めます。 福井市財政は非常に硬直化しています。指定管理、業務委託、統廃合、売却、古い施設の活用等を含めた施設見直し提案を行います。 ホームページを活用した情報入手、利用手続きなど全部署で取り組むよう求めていきます。
市民の時代！ 地域の時代！	「地域の力」を高め るための施策を	生活スタイルが多様になり、行政の画一的なサービスでは対応できなくなってきました。また、財政も厳しい中、自分のことは自分で行うという意識が必要で、福祉、ゴミ、子育て、教育、防災などあらゆる分野で「地域」が役割を担うことが求められています。自分でできること、地域でできること、行政が行うことでの分担が必要なのですが、地域の力は残念ながら低下しているのが現実です。そのためにも、NPOの地域役割、地域間交流などの新たな地域観、地域作りが必要ななっています。	公民館を地区活動、地域ネットワークの拠点に据えた、公民館体制の充実を求めます。 福祉の大転換期。地域福祉ネットワークが求められています。福井市の特色を生かした福祉システムづくりの提案を行います。 地場産物の学校給食への利用拡大。学校給食の安全基準作りを求めていきます。
	「市民の力」を高め るための施策を	福井市を良くするためには、市民一人一人が意識を変え、自立した存在になっていくことが必要です。今まではどちらかという行政にお任せといった市民が多かったのではないのでしょうか。地域の力を高めていくのも、議会や行政を変えていくのも、介護や教育、環境対策などの重要な課題に関わっていくことも、市民一人一人の役割といえます。そのためには市民を対象にした社会教育の充実が求められますし、そのための情報や学習機会が保証されなければなりません。	障害者の自立を阻害する「障害者自立支援法」の見直し、福井市の独自施策を求めていきます。 市民協働と行政改革をリンクさせ、市民が公共を担える仕組み作りを提案していきます。 NPO活動、ボランティア活動が今以上に活性化するため、条例・制度見直しを提案します。 予算決算など行政情報がいつでもすぐ入手できるように、公民館に行政情報資料を設置するよう求めます。